



発行所 山陽新聞社 岡山市柳町2丁目1番1号 新聞製作センター 岡山市新築敷町1丁目1番18号

岡山トヨタから大人のセダン アリオン NEW 誕生! "ZERO CROWN"の岡山トヨタ

紙面の きょうの 中国首席代表今週にも訪朝 証券優遇税制の調整難航 Jリーグ 広島が2部降格 2少年あすにも再逮捕 5 6 28 39

性同一性障害

小学生で大半違和感

岡山大学院 患者調査 68%「自殺考えた」

肉体的な性別と心の性別が一致しない性同一性障害で、患者の大半が小学校時代に既に自分の性別に違和感を覚え、全体の四人に一人がその後不登校になり、さらに自殺を考えたことのある人は七割近くにも上ることが、中塚幹也・岡山大学院教授らの実態調査で分かった。(39面に関連記事)

性同一性障害は、原因がはっきりしておらず患者数なども詳しく分かっていない。小学生当時から患者が違和感を自覚したとする調査結果は、実態を知る上で重要な手掛りとなり、学校現場での同障害に関する理解と教育が求められそうだ。調査は、身体的な性的特徴を変化させるホルモン療法や性別適合手術などの治療を受けるため、

同大病院を受診した全国の六百六十一人に聞き取りを行って実施。自分の性に違和感を覚えた時期、不登校や自殺未遂の有無などを尋ねた。学校低学年までに、「体は女性で心は男性(FTM)」の患者四百七人のうち84%(三百四十三人)が小学校低学年までに、「体は男性で心は女性(MTF)」の二百五十四人のうち57%(百四十七人)が小学校高学年までと回答。「中学校」と答えたのは、FTMは3%(十三人)、MTFは21%(五十五人)だった。

また、全体の四人に一人が不登校、五人に一人が自傷行為、自殺未遂をだことのある人は68%に上った。自殺について悩んだことのある人は68%に上った。自殺を悩む時期は中学校時代が最も多く、小学校も一割以上いた。男性的、女性的な体に変化する二次性徴や、学生服の着用が背景にあることも分かった。

中塚教授は「教育現場では早い段階から、性同一性障害に対する相談窓口などの対応が必要だと分かった。悩みを抱える子どもたちが相談しやすい環境をつくれれば、自殺未遂や不登校を経験する人も少なくなるのでは」と話している。(民直弘)

教育との関連指摘 日本精神神経学会「性同一性障害に関する委員会」委員長の中島豊爾・岡山県精神科医療センター理事長の話 不登校の理由に性同一性障害も含まれるなど、教育上の問題との関連を指摘した点で大変示唆に富む。多感な子どもたちの心を知る上で、この調査結果を生かしてほしい。

体の性に違和感を感じながらも、どこにも相談できない。性同一性障害に関する岡山大大学院の調査は、患者の多くが成人までに自殺未遂や不登校などを経験しているという深刻な実態を明らかにした。学校や家庭、社会の理解がまだに進まぬ中、患者らは「一人でも周囲に理解者がほしい」と訴えている。（1面関連、民直弘）

身近に理解者ほしい

「最初に自分の性に違和感を持ったのは小学校の三年生かな。姉のスカートを盗んだ時、心臓が止まるような感じがした。それ以来、自分と他人の間に壁を感じてきた。高校生のとき、初めてカミングアウトした。最初は、周囲の反応が良かった。でも、徐々に周囲の反応が冷たくなっていった。理解者がほしい。」



「四十代。肩まで伸びた髪と白いスカート。田中さんは「体が男性で心は女性」の性同一性障害。現在、岡山大病院で女性療法を受けている。幼い時から男性であることに疑問を持っていました。思春期に声変わりして肩幅ががっしりするようになった。」

「障害をさらりと話せる時代」。性同一性障害への社会的理解が進むことを願う田中さん。前半には手首を切り、自

患者悩む偏見、差別、違和感、相談できない

殺を図ったこともある。その後、男性として生きる決心をし、結婚。だが、自分の気持ちを抑えきれず、十数年たって妻に告白、離婚した。名前も家庭裁判所に申し立てて女性らしく変え、男性用の服は全部捨てた。「中学や高校時代のアルバイトは全部焼いた。男子の制服を着た自分なんて思い出さたくもない」女性として生きている今は、自分の存在を肯定できないという苦しみからは解放された。だが、社会的にはまだまだ認知されたとは言えない。数年前まで民間会社の中間管理職だった田中さんは、上司に障害を打ち明けたとたん、急に転勤を言い渡された。岡山大病院に通院できなくなるため、辞めざるを得なくなったという。その後、二十社以上の面接を受けたが、障害を告げると、すべて落ちた。「心の性に正直でいようとする、自分の大切なものをすべて失わないといけない」長く差別や偏見に苦しんできた田中さんは「身近に一人でも相談者、理解者がいれば救われる」という。

「学校で性同一性障害について知る機会を設けたり、教諭が理解者になって障害のある子どもを守ってほしい。障害をさらりと話せる時代が早く来てほしい」性同一性障害の相談、診療は岡山大病院ジェンダークリニック（086-223-7151）で受け付けている。

学校現場での態勢づくりを

解説

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

なく、保健体育などの教科書にも触れられていない。「指導要領にないのと看做してない」と県教委保健体育課。

「子どもたちの悩みにま

「子どもたちの悩みにま

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」

岡山県内「認知されておらず、他の性同一性障害に理解を深める具体的な取り組みはほとんどない。いじめなどの深刻さは十分」